熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

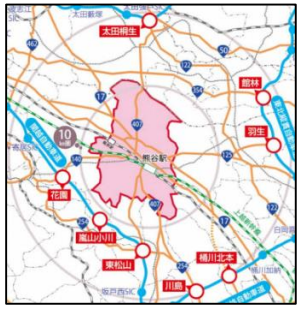
令和３年７月
（令和５年１２月更新）
（令和７年３月更新）

■ 事業のセールスポイント

本市の課題解決に向けたスマートシティ戦略のコンセプトとして、市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも優しいまち「やさしい未来発見都市 熊谷」を目指す。

■ 位置図

- 東京都心から50～70km圏に位置。
- JR熊谷駅から東京駅まで上越・北陸新幹線で約40分、在来線では上野駅や新宿駅まで60分台でアクセス可能。
- 秩父方面や羽生方面から秩父鉄道も乗り入れており交通の要衝である。



■ 対象区域の概要

名称：埼玉県熊谷市
面積：159.82k㎡
人口：191,245人（令和６年11月１日現在）
その他：利根川と荒川のもたらす肥沃な台地を背景に農業・工業・商業がバランスよく発展。上越・北陸新幹線に代表される鉄道を中心とした公共交通機関の発達、４つの国道の接続する道路網の充実により、埼玉県北部の中心都市としての機能を担う

■ 対象区域のビジョン

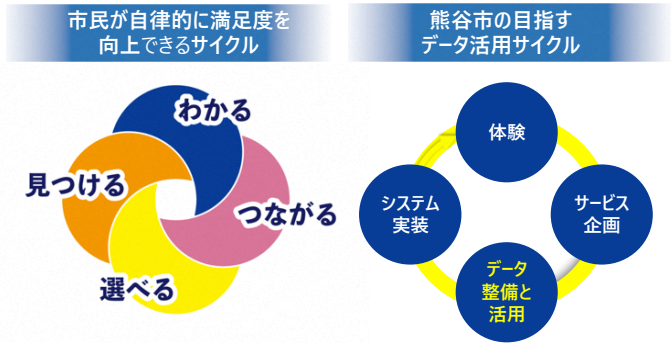
「やさしい未来発見都市 熊谷」の実現に向けた取組の展開

■ 本事業全体の概要

本事業においては以下2点を踏まえ、熊谷スマートシティの推進を図る。

①熊谷スマートシティのトータルブランディング方針

本市が行うスマートシティ政策のブランドアイデンティティの統一のため、スマートシティ政策の範囲や考え方、基本的な方針、キーワード等を記載した「熊谷スマートシティのトータルブランディング方針」を定め、２つのサイクルが好循環するイメージの明確化及び、熊谷スマートシティにおけるデザイン、ビジュアル、キーワードなどの統一化を図る。

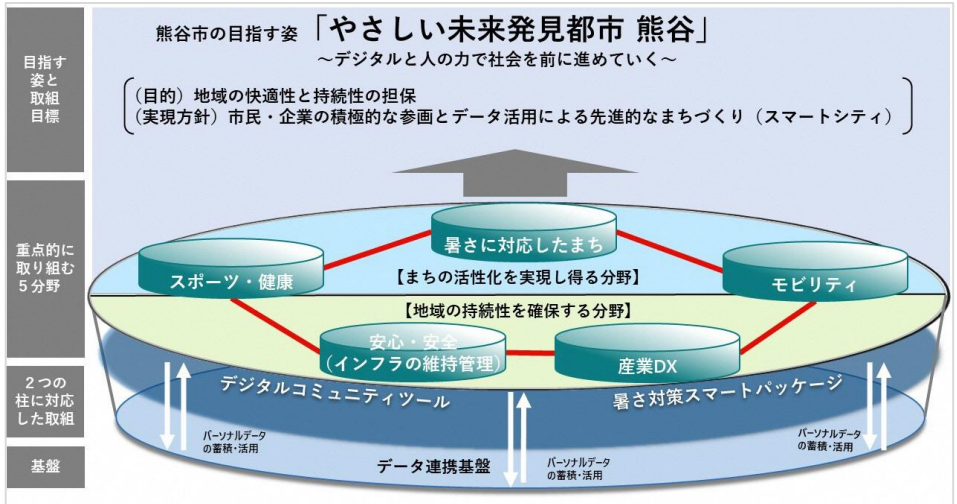


②「やさしい未来発見都市 熊谷」実現のためのスマートシティ戦略

市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも優しいまち「やさしい未来発見都市 熊谷」を目指す。

また、課題解決に向けた具体的戦略として、「デジタルコミュニティツールの導入」と「暑さ対策スマートパッケージの提供」を中心としたスマートシティサービスを展開する。

さらに、横断的なコンセプトとして、市民や企業、団体等が、熊谷スマートシティのあらゆる分野、取組等に"クールに"関わることができる環境「スマートクールシティ」を目指す。



熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

令和３年７月
（令和５年１２月更新）
（令和７年３月更新）

2

■ スマートシティの目標（ＫＰＩの設定）

課題解決に向けたＫＰＩを以下のように設定する。ＫＰＩの有効性については毎年度確認を行い、必要に応じて見直しを行うことで成果の検証方法についても改善していくことを想定する。※ＫＰＩ（Key Performance Indicator）＝重要業績評価指標

※一部（主要3分野）の指標について記載

【アウトプット指標】

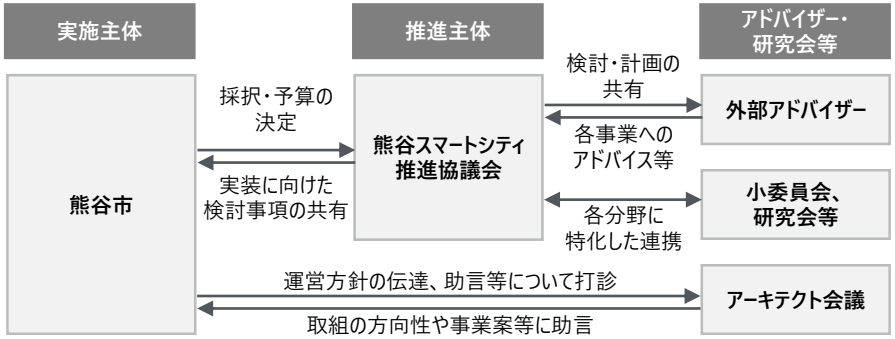
分野	ＫＰＩ【計測指標単位】	実績値			目標値			
		令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和６年度末	令和７年度末	令和８年度末	令和９年度末
【暑さに対応したまち】	暑さに負けない快適で活力のあるまち							
	クマぶらの利用登録者数（前年度からの増加数）【人】	3,176（実績値）	6,862（実績値）	35,385（実績値）	50,000（25,000）	55,000（5,000）	56,000（1,000）	60,000（5,000）
	地域電子マネー・コミュニティポイントアプリの利用登録数【人】	–	–	25,474（実績値）	35,000	40,000	41,000	45,000
	地域電子マネー利用加盟店数【店】	–	–	907（実績値）	1,000	1,100	1,200	1,300
	暑さ対策スマートパッケージサービスアクセス回数【回】	–	–	1,000	9,000	14,000	19,000	24,000
【モビリティ】	便利で快適な公共交通サービスが整備された回避性の高いまち							
	ｗｅｂアプリによるコミュニティバスのスマホ回数券購入者数【人】	–	–	432（実績値）	2,000	3,000	4,000	5,000
【スポーツ・健康】	市民だけでなく誰もが魅力を感じ訪れたくなるまち							
	スポーツイベントスタンプラリー参加者数【人】	–	139（実績値）	723（実績値）	1,000	1,100	1,200	1,300
	県の前たな健康管理アプリ登録者数【人】	–	–	–	1,700	2,400	3,000	3,600
【安心・安全（インフラの維持管理）】	平時・有事においても安心・安全が担保されているまち							
	３Ｄ都市モデルワークショップ参加者数【人】	–	–	40（延べ数）	50（延べ数）	50（延べ数）	50（延べ数）	50（延べ数）
	推奨点検へのＢＩＭ・ＣＩＭの導入【件】	–	–	–	–	5	10	10
【産業ＤＸ】	産業が活性化している持続可能なまち							
	産業ＤＸ推進事業における事業認定数【件】	–	–	–	1	1	1	1

【アウトカム指標】

分野	ＫＰＩ【計測指標単位】	実績値			目標値			
		令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和６年度末	令和７年度末	令和８年度末	令和９年度末
【暑さに対応したまち】	暑さに負けない快適で活力のあるまち							
	クマぶら利用満足度【ポイント】	–	–	3.2	3.4	3.8	3.9	4.0
	外出機会の増加度【%】	–	–	–	前年比＋10	前年比＋10	前年比＋5	前年比＋3
	地域電子マネー・コミュニティポイントアプリサービス満足度【ポイント】	–	–	3.5	4.0	4.2	4.3	4.4
	暑さ対策スマートパッケージサービス満足度【ポイント】	–	–	3.2	3.6	4.0	4.0	4.0
【モビリティ】	便利で快適な公共交通サービスが整備された回避性の高いまち							
	スマホ回数券利用率【%】	–	–	40（実績値）	60	70	73	75
	スマホ回数券の満足度【ポイント】	–	–	3.6（実績値）	3.6	4.0	4.1	4.2
【スポーツ・健康】	市民だけでなく誰もが魅力を感じ訪れたくなるまち							
	スポーツ活動をしている市民の割合【%】	47.8	40.6	43.4	66.0	67.0	68.0	69.0
	健康であると感じている市民の割合【%】	68.4	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
【安心・安全（インフラの維持管理）】	平時・有事においても安心・安全が担保されているまち							
	３Ｄ都市モデルワークショップ満足度【ポイント】	–	–	3.6	4.0	4.2	4.3	4.4
	推奨点検の３Ｄモデル化【件】	–	–	–	–	5	10	20
【産業ＤＸ】	産業が活性化している持続可能なまち							
	事業者のＤＸへの取組割合【%】 地主事調査参考値	–	–	–	35.0	50.0	60.0	65.0

■ 運営体制

熊谷スマートシティの取組体制は、本市が抱える多様な課題解決に向けた実証的取組が可能な事業実施体制の構築を図るため、「官・民・学」が連携した熊谷スマートシティ推進協議会」を中心に構成される。



■ 導入技術

「デジタルコミュニティツール」の活用と、本市が培った暑さ対策のノウハウを活かした「暑さ対策スマートパッケージ」の提供など、先進的技術を積極的に活用しながら、各分野でスマートシティサービスを展開し、本市の目指すまちづくりの実現を目指す。

デジタルコミュニティツールの導入

熊谷スマートシティサービスの入口となる都市ポータルアプリ「クマぶら」を中心に、地域電子マネー、コミュニティポイント、コミュニティバスのスマホ回数券を導入する。

暑さ対策スマートパッケージの提供

長年培ってきた暑さ対策のノウハウを活かし、暑さの中でも市民や来訪者が快適にまちなかを回遊できるよう、ヒートエリア、クールシェアスポットを地図上に重ねて表示する「暑さ対策スマートパッケージ」を提供し、コミュニティポイントとも連携する。

データ連携基盤の導入

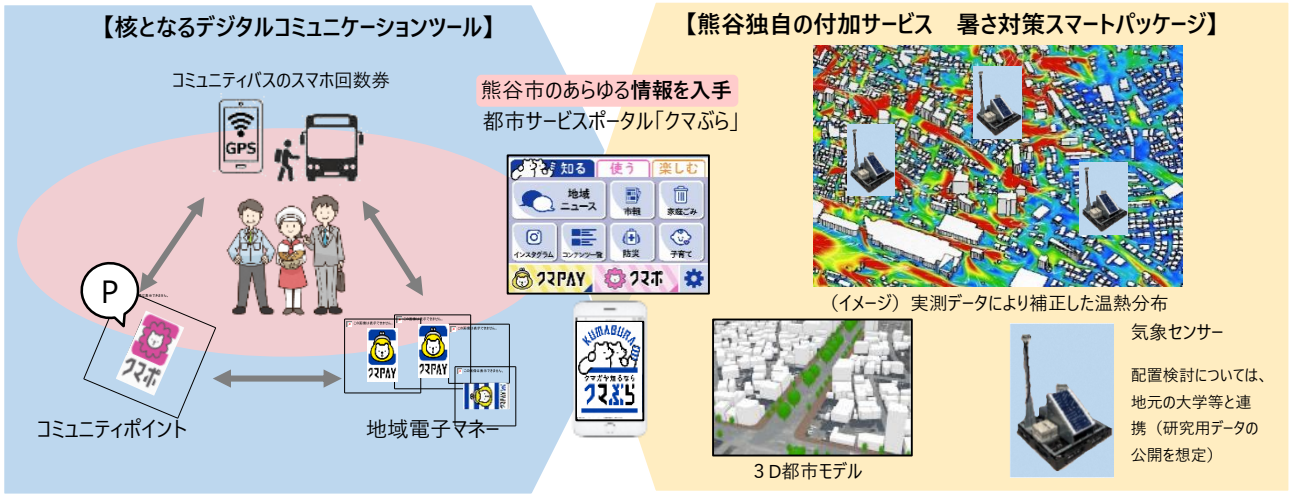
スマートシティ戦略を支える重要なプラットフォームを整備する。

熊谷版リビングラボ「コミュニティラボ」の取組

WEB上での公民一体となって自由に語り合う場の設置

市民参加型デジタルプラットフォームによる市民参画の推進

WEBブラウザで利用できるデジタル立体地図環境の提供



熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

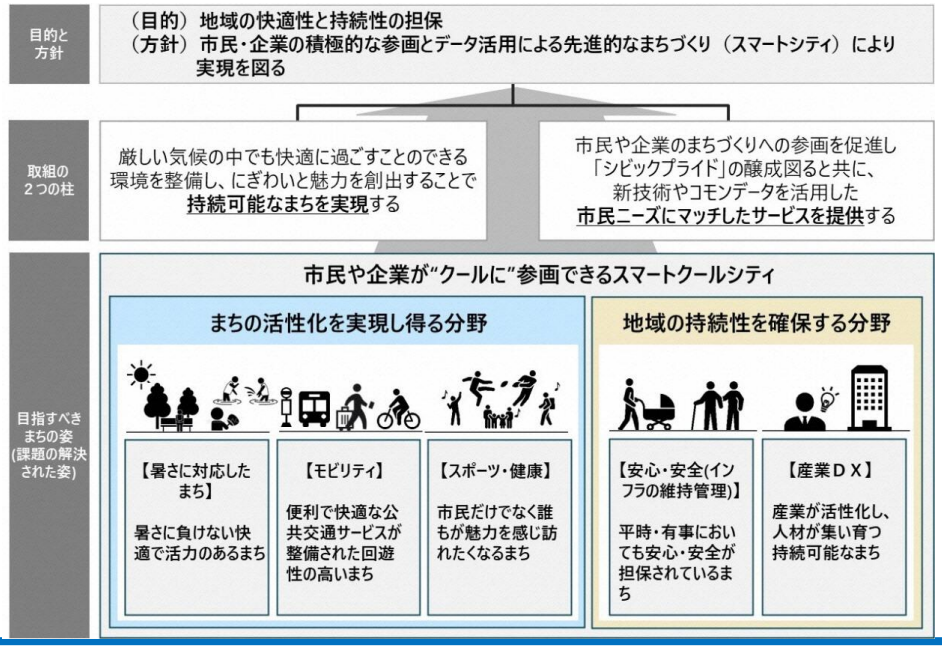
令和３年７月
（令和５年１２月更新）
（令和７年３月更新）

■ 地域の将来像

人の力（市民参画等）とデジタルの力（データ活用等）により、まちの活性化及び地域の持続性を確保する。

- 公民連携のまちづくりにより、熊谷特有の「暑さ」を含む四季を通じた豊かな住まい方、まちなかでの魅力的な過ごし方などを創出することで、地域活力の増大や関係人口の増加を図り、持続可能なまちを目指す。
- 市民や企業のまちづくりへの参画を促進し「シビックプライド」の醸成を図るとともに、デジタル手法を活用したコミュニティの活性化、新技術やＧＩＳデータを含むコモンデータ※の利活用を通じた市民ニーズにマッチしたサービスの提供に取り組む。
- 取組の柱となる上記二項目の達成のため、スマートシティの取組各分野において、市の直接的な事業推進のみならず、市民や企業等の自由な発想・発信を後押しし、熊谷スマートシティへ"クールに※"参画できる環境（スマートクールシティ）を整備し、公民連携によるスマートシティの定着を図る。

※クールには「涼しい」の他にも、「かっこいい」「素敵な」といった意味を含む。
※コモンデータ ：熊谷スマートシティ推進協議会において、行政が提供するオープンデータ以外にも、民間から公共的な活用に向けて提供されるデータを含めて表現する場合に用いる用語。



■ スケジュール

令和３年度においては、各取組の詳細化を行うとともに、暑さに対応したまち分野に関するニーズ把握及び実証実験を行う。令和４年度以降は令和３年度の詳細検討を踏まえた実証実験を展開し、令和５年度以降に順次、各分野のスマートシティサービスの実装・運用を目指す。

※ロードマップは各年度における検討状況等を踏まえ、毎年度更新を行うことを想定

【データ連携基盤・都市ポータルアプリにおけるロードマップ】

実施項目	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
データ連携基盤	基本方針検討・設計		システム構築・サービス検討	実装・運用			
都市ポータルアプリ「クマぶら」	サービス設計 システム構築	実装・運用（まちあるきアプリに特化）		都市ポータルアプリとしての機能拡充・マイナンバーカードによる本人認証機能の追加		運用継続（さらなる機能拡充を検討）	

【５分野におけるロードマップ】



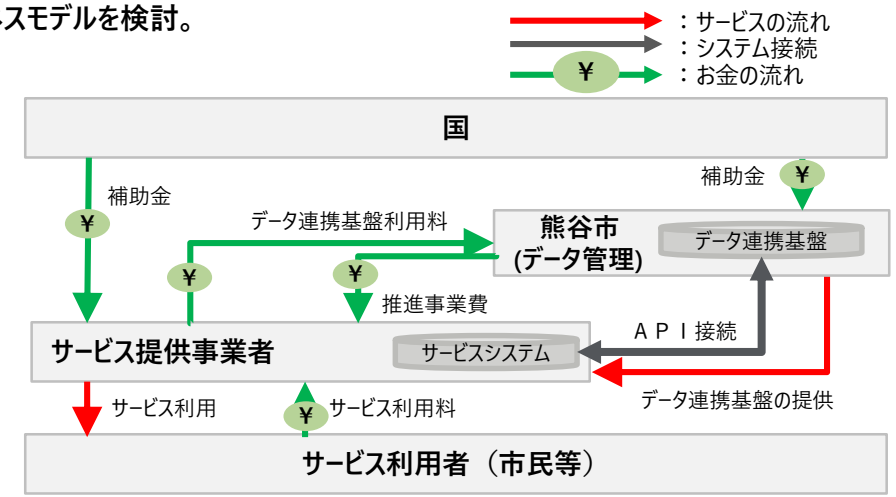


熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

令和３年７月
（令和５年１２月更新）
（令和７年３月更新）

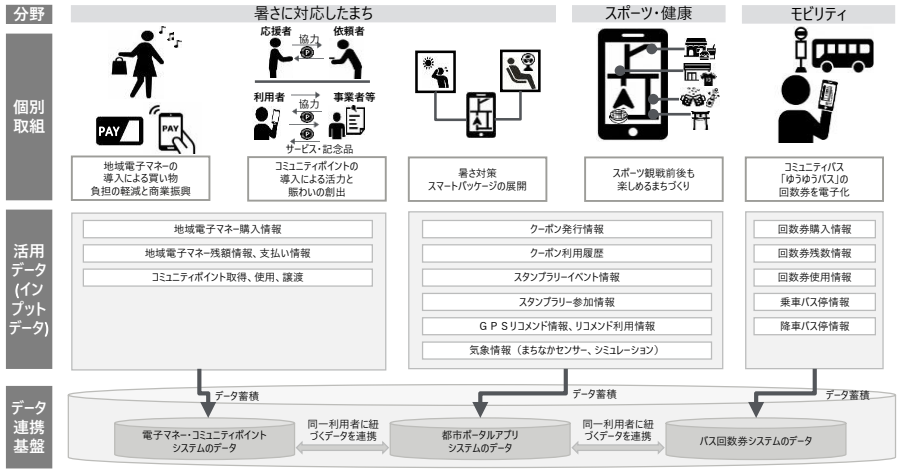
■ ビジネスモデル

熊谷スマートシティを持続可能な取組とする仕組みとして熊谷スマートシティビジネスモデルを検討。



■ データ活用

本市のスマートシティの取組目標として掲げる「地域の快適性と持続性を担保し、市民参加とデータ活用により先進的なまちづくり」の実現に向け、各分野においてデータを活用した取組を実施する。



■ デジタル人材の育成

熊谷スマートシティが将来にわたり持続・発展していくために、具体的取組の実装と併せ、以下の各分野において人材育成に係る取組を実施し、熊谷スマートシティの持続的発展に向けた好循環を生み出す。

市民に対するスマートシティ・ＤＸに係る多様な機会創出

「スマートクールシティ」の理念のもと、あらゆる世代の市民に対し、スマートシティやＤＸ、データ活用に係る多様な機会を積極的に提供する。

３Ｄ都市モデルの活用に係る市民ワークショップや本市のまちの未来を描く「シーンスケッチコンテスト」等のイベント開催、都市ポータルアプリ「クマぶら」で活用するデータの提供呼びかけ、市が開催する各種講座・教室等のオンライン化の実施など、市民が熊谷スマートシティやＤＸの推進に参画できる機会を数多く創出することにより、ＩＴリテラシーの底上げや、公民が連携したデータ活用まちづくりとの連動、未来の熊谷を共創していくための機運醸成を図る。



シーンスケッチコンテスト



３Ｄ都市モデル市民ワークショップ

市役所内部におけるＤＸスキルの向上と蓄積

市民や産業分野のデータ活用・ＤＸの取組を促進するためには市役所が率先してデジタル人材育成に取り組み関係者のつなぎ役を果たすことを目指すべきであり、市役所職員全体に対するＩＴ、自治体ＤＸ、ＥＢＰＭ等のリテラシー向上の取組と並行して、熊谷スマートシティの持続サイクルの上で必要なスキル・視点の定着を図る。

産業ＤＸの推進・産業創造

- 市内事業者のＤＸを応援する取組や、自社のＤＸ化を推進する取組に対し、ふるさと納税型クラウドファンディングを実施し支援する。
- 市内におけるスマートシティに係る実証実験等を積極的に誘致する。
- 気象センサーの観測データ、各種コモンデータ、シミュレーションや分析結果などを本市の資産として活かす方策として、外部人材や大学等の研究機関と連携し、本市において実証されたデータ取得や分析の手法等を他都市で応用可能な形で整理し、ビジネス化することを目指すワークショップ等を検討する。



ふるさと納税型クラウドファンディング